



外国出張報告書

平成 26 年 7 月 23 日

1. 出張国名 タイ
2. 出張月 平成 26 年 6 月
3. 出張目的 東北タイにおける萌芽更新技術開発に係る現地調査と
プロジェクト推進協議：C

4. 成果の概要

タイ、ノンブアランプー県の農家林ならびにウッタラディット県の会社有林とタイ林業公社有林に設定したチーク萌芽成長試験地について定期調査となる毎木調査を実施した。調査本数は、農家林 635 本、会社有林 533 本、公社有林 289 本で延べ 1457 本であった。

その結果、現時点で 7 年生になる萌芽の個体サイズは同齢の植栽木と差がないなど、育林経費の中でも負担の大きい植栽コストを削減できる萌芽更新手法の有効性を示唆する状況を確認した。

農家林に設定した萌芽の仕立本数に関する試験では 3 年生萌芽の段階でも 1 本区と 2 本区優勢萌芽の個体サイズには差が認められなかったが、2 本区で予想される競合に伴う状態変化を観察する必要がある。プロジェクト研究の今後の展開について、タイ側の意見を提示してもらいながら意見交換した。